

# 水 平成30年度 水道事業決算

上下水道総務課  
☎27913

経費削減に努めた結果、黒字を維持することができました。  
引き続き健全経営に努めるとともに、今後は老朽化した施設の更新を計画的に進めます。

## ■水道事業

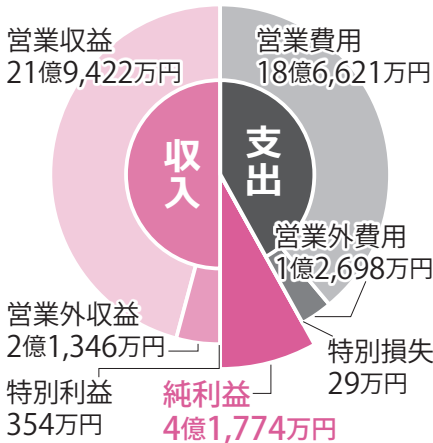
- 配水量……2,179万<sup>m</sup>
- 1日平均……5万9,701<sup>m</sup>
- 1日1人平均……413<sup>ℓ</sup>

## ■工業用水道事業

- 契約事業所数……11事業所
- 契約給水量(日量)…2万2,608<sup>m</sup>

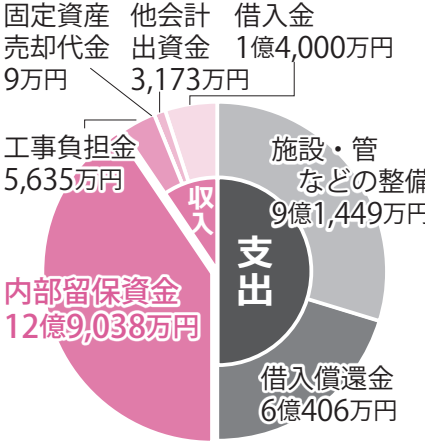
### 水をお届けするための収入・支出

収入総額 24億1,122万円  
支出総額 19億9,348万円



### 水道施設をつくるための収入・支出

収入総額 2億2,817万円  
支出総額 15億1,855万円



### 貸借対照表

| 借方                    | 貸方               |
|-----------------------|------------------|
| 固定資産 230億2,081万円      | 固定負債 48億8,129万円  |
| 流動資産 34億5,337万円       | 流動負債 10億1,033万円  |
|                       | 繰延収益 40億6,551万円  |
|                       | 資本金 124億6,408万円  |
|                       | 資本剰余金 9億3,160万円  |
|                       | 利益剰余金 31億2,137万円 |
| <b>合計 264億7,418万円</b> |                  |

※内部留保資金には、減価償却費などが充てられています。

※貸借対照表とは、年度末における事業の資産、負債および資本などの財政状態を示す報告書です。

## 行政改革 第7次 平成30年度 取組状況

市では、平成28年度からの6年間を計画期間として行政改革に取り組んでいます。30年度の主な取り組み状況を一部紹介します。

### ■効率的な行政運営 行政管理課・☎2112

- ▶市政情報提供体制の整備  
ホームページアクセス数…205万2,123件
- ▶個人番号制度の普及促進  
個人番号カード普及率…10.2%、交付数累計…15,260件

### ■人材の育成と活用 人事課・☎2116

- ▶女性職員の登用と職域拡大  
管理監督職員に占める女性の率…20.3%
- ▶市民と行政の協働事業の推進  
協働事業数…152件、市民活動支援補助金事業数…6件

### ■財政の健全運営 財政課・☎2106

- 財政基盤の強化
- ▶市税などの徴収率の向上  
現年課税分市税徴収率…98.5%
- ▶未利用地の処分など  
未利用地など24件の売却額…3,689万円
- 歳出の見直し
- ▶特定規模電気事業者(PPS)の導入  
電気料金削減額…5,283万円
- ▶各基本方針の成果の反映  
公共施設マネジメントなど…8,177万円

### ■主な財政指標

すべての指標で目標を達成しました!

経常収支比率

目標 90%台前半  
目標達成!

平成30年度  
92.1%

実質公債費比率

目標 10%未満  
目標達成!

平成30年度  
7.4%

将来負担比率

目標 5%未満  
目標達成!

平成30年度  
実質的負担なし

市債発行額

目標 79億円以内  
目標達成!

平成30年度  
55億円

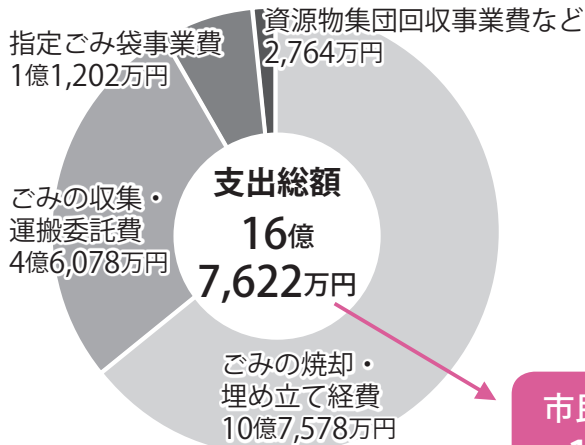
平成30年度

# ごみ処理に要した費用

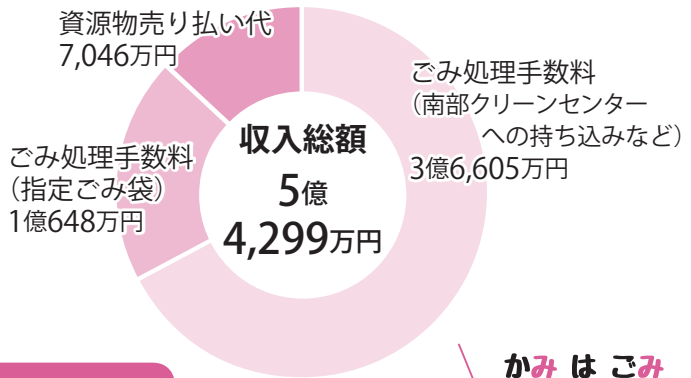
クリーン推進課・☎2142

ごみの量を減らすことができれば、処理費用が削減でき、その分、教育や福祉など、他の目的に使うことができます。未来のために、ごみの減量にご協力をお願いします。

## 支出の内訳



## 収入の内訳



市民1人あたり  
11,580円

かみはごみ  
じゃないよ!



ごみ減量の  
キーワード  
は『紙類』

燃やせるごみの約4割は紙類です。紙類を『燃やせるごみ』ではなく『資源物』として出すことで、燃やせるごみが減ってごみ処理費用が削減でき、また、資源物として売却することで収入にもつながります。

## 上昇の時代を築く

至誠  
通天

市長コラム  
No.071



和泉 聡

早いもので元号が令和になって、半年が過ぎました。日本の社会の動きが元号の変化によって影響を受けるのか、受けないのか。様々な議論があります。私は「ある程度影響を受けると思っています。なぜなら、日本人が元号による時代区分を意識しながら生活している以上、その心理的な蓄積は、日本社会の動きに何らかの影響を与え、考えた方が自然だからです。

先日、経済評論家の西村晃さんの講演を聞く機会がありました。その中で西村さんが話した時代区分が印象的でした。曰く、明治維新以後の日本を①明治時代の45年間②大正と昭和の敗戦までの35年間③終戦後から昭和が終わるまでの約45年間④平成の30年間、という4つのかたまりで見ると、  
①は富国強兵政策で欧米列強に肩を並べようとして上昇した時代、  
②は戦争へと突き進み敗戦に至った下降の時代、  
③は焼け野原から立ち上がり高度成長を経て日本全体で復興にまい進した上昇の時代、  
④はバブル崩壊からのデフレに苦しんだ停滞の時代。こうみると、上昇、下降、上昇、下降(停滞)と繰り返してきたので、今度の令和の時代は上昇の番だと。しかも、上昇した時代は、いずれもスタートは苦しい状況(①は黒船来航に始まる社会の混乱、③は敗戦という苦境)で、今の令和が、スタートは少子高齢化、人口減少という苦しい状況にあることも同じだということです。

昨年一年間で日本の人口は、44万8千人減りました。飢饉もない、戦争もないのに、これだけのスピードで人口が減るのは、かつて経験したことのない厳しい事態です。しかし私たちはひるむことなく、現実に向かい、後世のために必ず上昇の時代を築いていく。日本を形作るひとつのまち、足利市として、そんな決意を新たにしたいと思ったのでした。

Pick Up!

お知らせ

税

福祉

募集

子育て

健康

働く

講座・教室

イベント

施設

相談